

世界トップレベル研究拠点プログラム (WPI)

将来構想について (論点整理)

平成 28 年 7 月 15 日
基礎研究振興課

1. WPI 新規拠点公募について

背景

○ 世界の成長に取り残される日本

- －名目 GDP は、90 年頃までは急速な成長を遂げたが、その後約 20 年間横ばい
- －経済活動がグローバル化する中で、構造改革を成し遂げた欧米やアジアを中心とした新興勢力との競争が激化

○ 世界の中での日本のプレゼンスの急速な低下

- －90 年代までは世界を席巻した製造業も、韓国や中国企業に敗退
- －THE 大学ランキングの急降下。世界 Top100 以内に 10 校はおろか、アジア Top100 位以内 10 校の維持すら厳しい情勢
- －国際的な頭脳循環の中で、留学生交流についても日本のプレゼンスが相対的に低下

○ 成長の活力の源泉は、国際的な頭脳循環の中で有能な人材を確保し、最先端の研究開発成果を創出し続けることによりのみ達成が可能

- －米国の成長の活力は、国際的に visible な大学や研究拠点到世界中から優秀な人材が集積することにより維持・発展

平成 29 年度に WPI 新規拠点公募を行う必要性について

○ 「未来への投資」である最先端の科学及び高度な人材の育成により、世界に抜きん出た研究開発の枠組みの構築・維持・発展

- －日本の持続的な成長を牽引

○ THE 世界大学ランキング 2016 (アジア版) : 日本の大学の急速な地位低下

- －特に論文引用度スコア急落、トップ層大学の地位低下が顕著であり、WPI の枠組みにより世界に visible な研究拠点がリードしていくことが喫緊の課題

○ H28 年度から導入される特定国立研究開発法人制度や指定国立大学制度との相乗効果

- －その他の研究開発法人や大学に対しても一層の改革の加速を促進

○ 第 5 期科学技術基本計画、日本再興戦略 2016 の提言等

- －あらゆる科学の基盤となる「数理科学の振興」「ビッグデータ等の戦略的な共有・利活用を可能にする国際研究拠点を形成」することなどを新たに明記

→国際頭脳循環の中で、世界からトップレベル人材を獲得・糾合させ、日本の科学技術の発展・人材育成へつなげるため、横断的な科学技術である数理・情報科学を考慮した新たな WPI 拠点の形成が必要なのではないか

平成 29 年度 WPI 新規拠点公募に関する論点**○ 対象**

- あらゆる科学の進展を先導し得る数理・情報科学を考慮した異分野融合等による新領域の創出
- 既存の拠点形成措置等を土台として、世界トップレベルに到達しうるポテンシャルのある構想を対象
- 政策課題解決への貢献、成果の社会実装を見据えた人文・社会科学の観点を含むことを奨励

○ 支援規模・期間

- 支援規模については、拠点構想・拠点形成の進捗状況によって調整。拠点全体としては、ホスト機関からの支援や外部資金の獲得により十分な資金を確保。厳格な審査等により、支援期間は、5～10年（段階的に支援額を削減）
- ステージゲート制を導入し拠点の研究成果・研究環境だけでなく、募金・寄付などの財源開拓、組織再編の進捗など、総合的な達成状況を厳しく審査
- 10年を待たずに”World Premier”の水準に達したものについては、WPIアカデミー（仮称）として、他の補助制度等との連動などのインセンティブを付与、プログラムからの早期卒業

○ 組織再編へのインセンティブと将来の自立化

- 申請の段階で、既存組織の改廃を含めた中長期的な組織再編構想の提示とその進捗状況の評価
- 既存組織の再編については、その評価と支援の枠組みとの連動も検討。大学改革の動きと整合的に、政策効果を最大化

○ 人材育成

- 大学院生などの受入れなど、教育や人材育成の観点を導入・明確化

2. WPI のブランド化とネットワーク化について

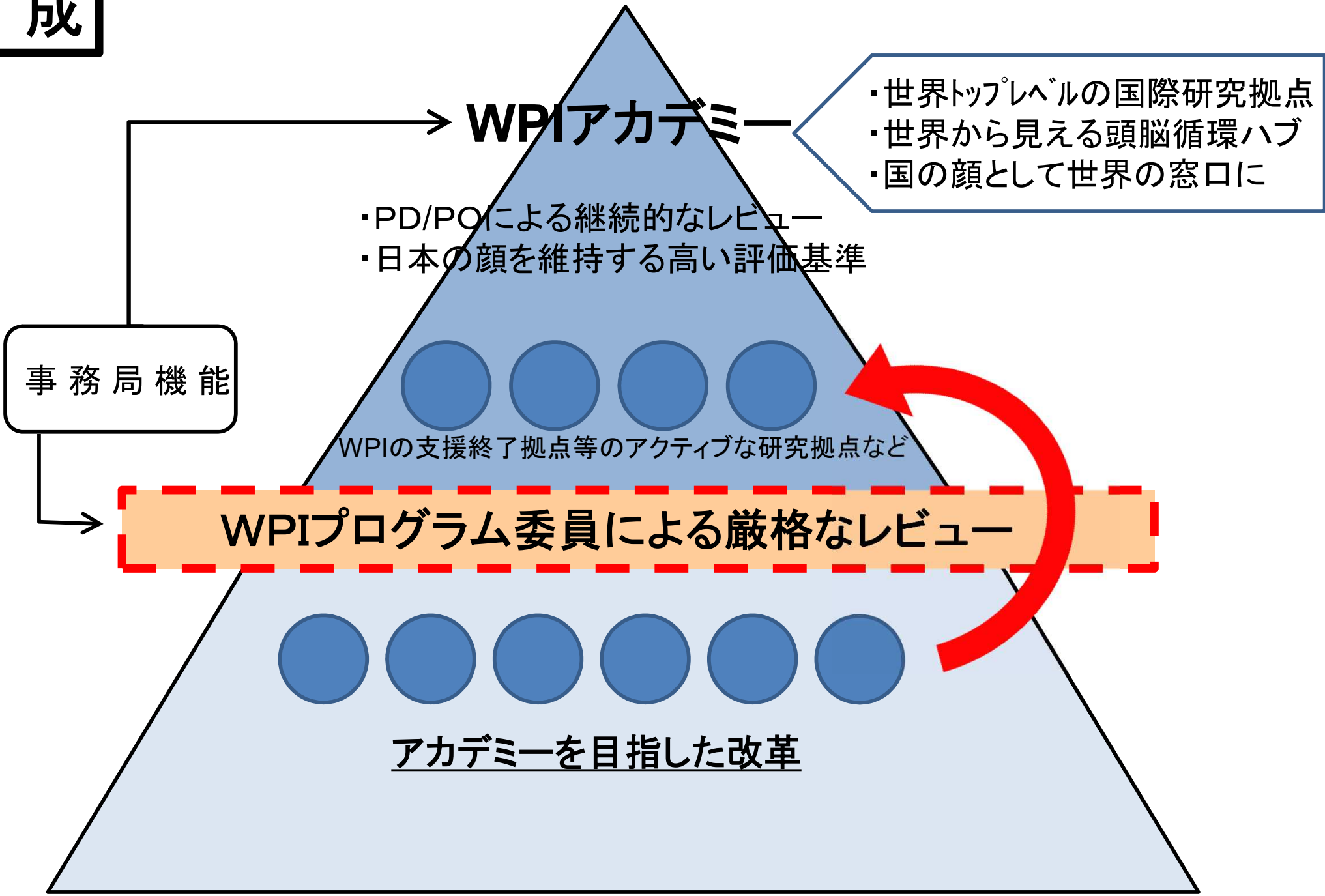
他施策との連携による WPI の効果の最大化

- WPI 各拠点、特に、平成 28 年度で補助金支援終了の拠点については、自立化に向け大学が自助努力を行っている
- WPI 拠点が達成している極めて高い成果をさらに高め、また、その成果を拠点の外へと拡大させていく観点から、WPI と方向性の近い他のシステム改革施策等、関連する施策とも密接に連携・パッケージ化
- 過去 10 年間の WPI の成果自身の最大化を図るとともに、WPI の成果を活用し、他のシステム改革の効果も最大化させる

WPI の認証制度と成果の普及システム

- WPI 補助金支援終了拠点及び同水準の研究力・国際性を持つ研究拠点について、プログラム委員会や PO による、きめ細やかなフォローアップの下、日本のトップレベル研究拠点として認定・ブランド化する仕組み（” WPI アカデミー（仮称）”）を創設する
- あわせて、これまで各 WPI 拠点で蓄積されてきた経験・ノウハウを集約・整理し、各 WPI 拠点、ホスト機関、WPI 拠点を持たない大学等、大学全体へ展開することで、WPI のノウハウの学内外への横展開を図る（日本再興戦略 2016 にも同方針が明記）
- これらのブランド化及び成果の横展開の実施・サポートに当たって必要な事務局を強化

構成



機能

